



BUSINESS REPORT
19.4.1
~19.9.30
FUJI

BUSINESS REPORT

FUJI ビジネスレポート

第43期中間期 - 平成19年4月1日から平成19年9月30日まで

株式会社 藤商事



JASDAQ
(証券コード 6257)

商品ハイライト

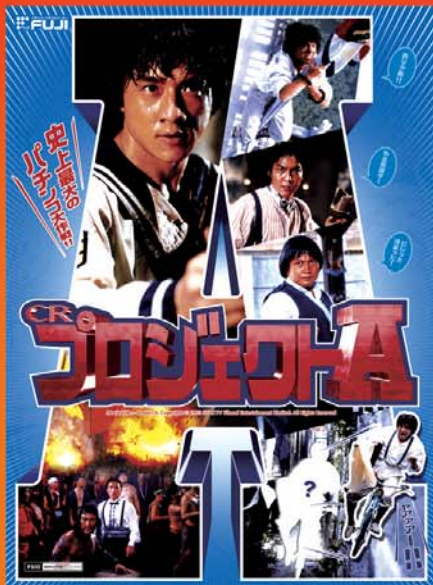
ひと味違う発想で一步 先の“オモシロさ”を目指して!

まさに笑 (Show) パチ!



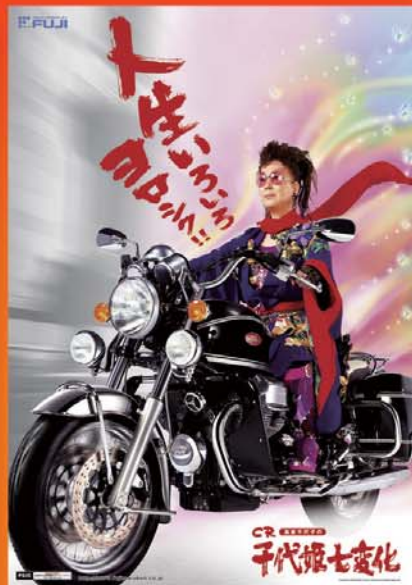
パチンコ遊技機
「CRかつぱ伝説」

史上最大のパチンコ大作戦!?



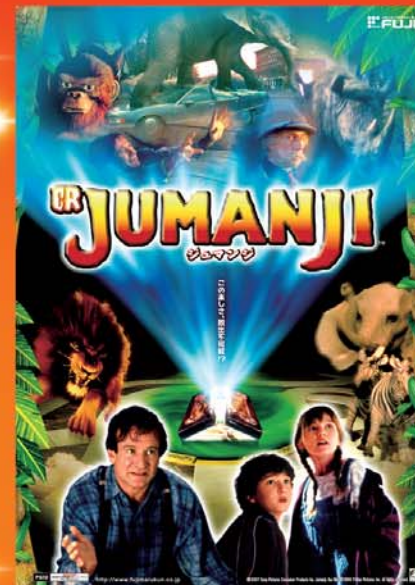
パチンコ遊技機
「CRプロジェクトA」

人生いろいろヨロシク!!



パチンコ遊技機
「CR島倉千代子の千代姫七変化」

これが、ジュマンジワールドだ!



パチンコ遊技機
「CRジュマンジ」

伝説の男 ブルース・リー



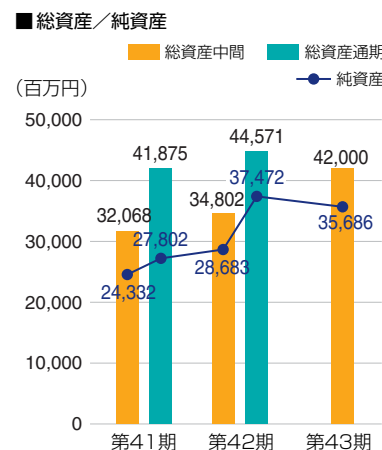
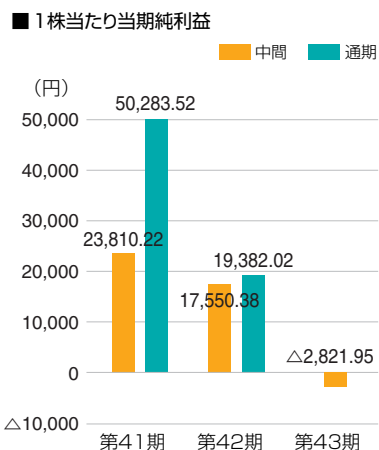
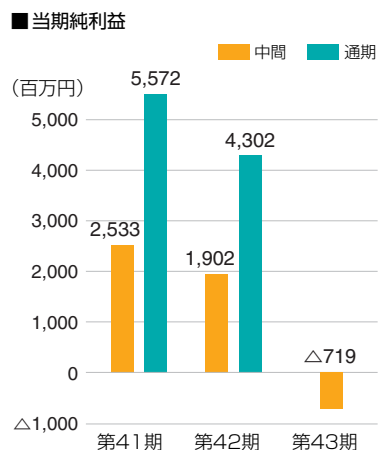
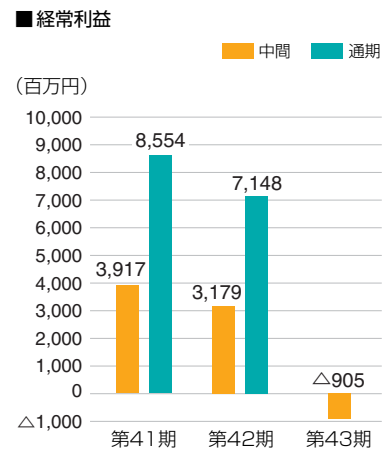
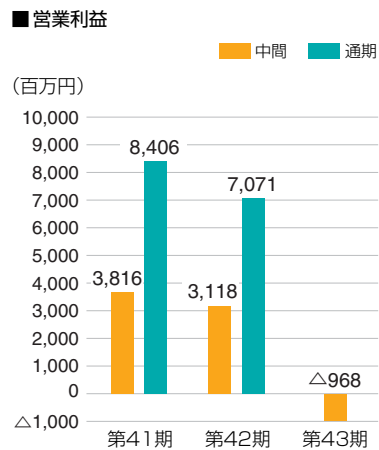
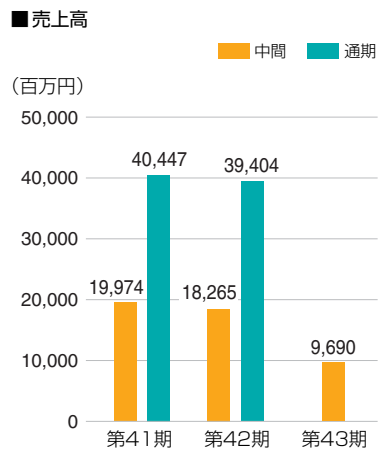
パチスロ遊技機
「パチスロ ブルース・リー」



「FUJI3.0」で
さらなる進化へ

詳しくはP7へ





株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

ここに第43期中間期ビジネスレポートをお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

当中間期のパチンコ・パチスロ業界は、ファンの減少傾向が続いており、パチンコホール様の経営は一段と厳しさを増しています。加えて、ホール様の経営環境の悪化から、新機種の入れ替えに対する要求水準が高まり、メーカー間の競争も激化しています。

このような状況において、当社は、幅広いターゲット層に向け、版權力を生かしたゲーム性豊かな遊技機を積極的に投入しましたが、ヒット機種が生まれず、当中間期の経営成績は、大幅な減収、損失の計上となりました。

それに伴い、10月12日に公表しました通り、平成20年3月期の業績予想を下方修正いたしました。株主の皆様には、ご心配をおかけする結果となり、誠に申し訳なく、深くお詫び申し上げます。

当社は今の業績を真摯に受けとめ、これからの経営に邁進するとともに、新たに策定したコーポレートスローガン「ヒト味違う“オモシロ”さ!」を全社員でかたちにし、当社の企業理念であります「お客様の繁栄を売ろう」を実現していく考えです。そして、今までの藤商事のイメージを一新するような製品を創出し、安定した成長の確保に結びつけたいと考えております。

株主の皆様には、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、心よりお願い申し上げます。

平成19年12月

代表取締役社長
松元 邦夫



社長インタビュー

減収減益の要因を踏まえ、業績回復に向けた取り組みを実施しています。

さまざまな要因が重なり、当中間期はヒット機種に恵まれず、当社としても不本意な結果となりましたが、私は、下期以降の業績回復をめざす上で、重点的に取り組む解決策を三つあげています。

一つは、集客力が高く、長期稼働が可能な遊技機を開発することです。「つくれば売れる」という時代は完全に終わり、ファンの心をつかんだ一部のメーカーの機種のみ人気に集中しています。そのため、「守るべきところはしっかり守り」「変えるべきところは思いきって変える」というスタンスをもって、これまでの藤商事にはなかった製品の創出を進めています。

他メーカーの追隨に努力を費やしても新しいものは生まれません。私たちは、「奇想天外」なアイデアをもって、今まで誰もやっていなかったことに果敢にチャレンジし、藤商事

らしさを存分に引き出した魅力あふれるパチンコ・パチスロを創り出したいと思います。そして、若者から年配の方々、女性といったターゲットを的確に見据え、「オモシロい」「楽しい」「何度やってもあきない」と感じていただくことはもちろん、当社の強みである「開発力」「著作権力」を生かし、光・音・演出、ファンの記憶に残るシーンを融合することで、機械一つひとつのクオリティを向上させていきます。それゆえ、開発者が失敗を恐れることなく、いろいろなことに挑戦できる企業風土を育てていくことも私の大切な役目だと認識しています。

二つは、人材の育成です。私は、開発過程の全体像を把握できる、総合プロデューサーを育てていきたいと考えています。機械の評価は最終的にはファンに委ねられます。いくら開発者・技術者が自信をもっていても、ファンに受け入れられなければ意味がありません。ゲームを楽しむ側の視点をもって、今の時代の流れを読みとり、機械のつくり方に対して的確な指示・判断ができる人材。そういった社員

を時間をかけてでも、育成していきます。

最後は、プロモーションの強化です。当社では企画部を新設し、商品開発の立ち上げからセールスプロモーションに至るまで、一貫してフォローする体制を構築いたしました。

これらの取り組みはすでに実行に移していますので、下半期以降、効果が現れてくるものと考えております。

藤商事の「ものづくりの方向性」を示す、コーポレートスローガンを掲げました。

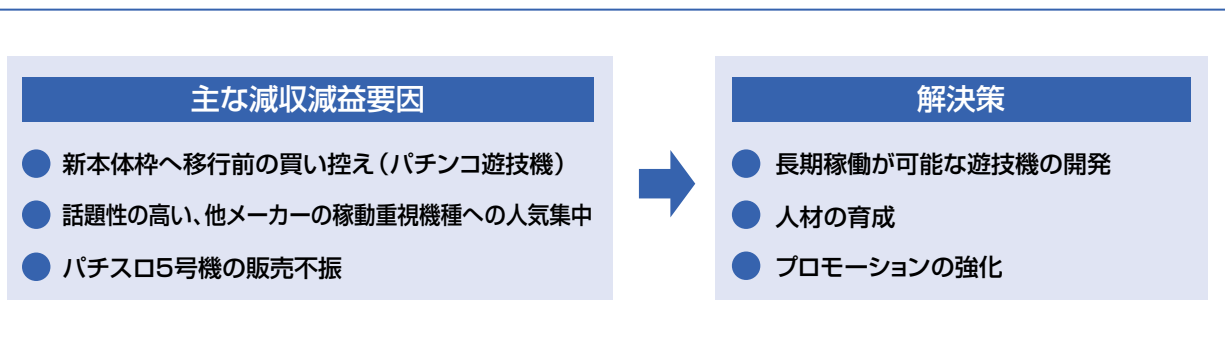
「ものづくりの方向性」の明確化を目的に、新コーポレートスローガン「ヒト味違う“オモシロ”さ!」を掲げました。これは、私たちが掲げる経営ビジョン「ヒト味違う発想で、一歩先の“オモシロさ”をめざして」を端的にフレーズ化した

ものであり、当社がファン・ホール様にどのような「価値」を提供するのかを表現したものです。従来の機種とはヒト味違う機種を次々と誕生させ、当社の商品力、ブランド力を高めていきたいと思っています。

また、下半期には当社とパチンコファン、パチンコホールの三者相互コミュニケーションを重視した、「FUJI3.0」という新たなコンセプトから生まれた新機種である「CR宇宙戦艦ヤマト」を投入します。

藤商事には高い志をもった社員と40年以上の歴史の中で培われてきた技術・経験が備わっています。株主の皆様にごさ、「藤商事は変わった」と実感いただけるよう、成長への新たな道を切り拓いていく考えです。

今後とも、株主の皆様におかれましては、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



ヒト味 違う “オモシロ” さ!

フレーズに込められた意味合い

「ヒト味」は「人間味」を表現し、パチンコ・パチスロに情熱を持ち続け、「オモシロさ」に向かって可能な限り挑戦する、というものづくりに取り組む基本姿勢を表現しています。



「FUJI3.0」を実践し、「ヒト味違う“オモシロ”さ!」を実現します。

藤商事は新経営ビジョンを実現するための具体的な施策として、新しい開発方針「FUJI3.0」を誕生させました。過去、そして現在の考え方から転換することで、市場に新しい価値観を提案してまいります。



「FUJI3.0」第一弾!!
ワンレンジ複数スペック

新本体枠と
ともに発進!

プレーヤー・ホール様・藤商事の 3者相互コミュニケーション。

今までのパチンコ・パチスロでは、メーカーとホール様の2者の関係で成り立っているものでした。しかしこれからは、ファンを主眼に置きつつ、ホール様がメリットを享受できるようにするための努力がメーカーに求められています。

藤商事はプレーヤーやホール様の“想い”にお応えできる遊技機を開発するため、「FUJI3.0」という考え方を打ち出し、実践しています。

業界初の「ワンレンジ 複数スペック」を開発。

コンテンツに適した確率(ワンレンジ)をベースに、ホール様の多様な営業形態に対応できるバリエーションを複数タイプ用意した「ワンレンジ複数スペック」。これにより、プレーヤーの満足度とホール様の収益率のバランスをベストな状態でご提供します。

ワンレンジ複数スペック

コンテンツの魅力を生かすワンスペックのメリット

ホール様の営業形態に対応できるバリエーション

プレイヤー満足とホール様満足の
同時実現

CR宇宙戦艦 ヤマト 遂に完成!!

©東北新社

「FUJI3.0」のもと、プレーヤーにもホール様にも満足して頂ける機種第1弾として、「CR宇宙戦艦ヤマト」を完成させました。「ワンレンジ複数スペック」と新本体枠「オーバルワン」も搭載し、藤商事のフラッグシップモデルとして市場に投入いたします。

特長1 新設計2.1ch
ハイエンドスピーカー

特長2 業界初のオーバル電飾

特長3 チャンスポタン

特長4 エルゴフォルムハンドル



全国にヤマトブームを巻き起こす大プロモーションを実施。

メディアと販促支援ツールを生かした大プロモーションを全国に向けて実施します。導入前はCMを活用し、「CR宇宙戦艦ヤマト」登場への期待感を高め、導入後はホール全体をヤマトワールドに変えるほどのツール群で稼働率アップを図ります。

経営成績に関する分析

中間期の経営成績

当中間期におけるわが国経済は、企業収益が好調に推移する中、設備投資も引き続き増加し、雇用の増加を背景に個人消費も底堅く、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

パチンコホール業界におきましては、パチンコ参加人口の減少に加え、当中間期にピークを迎えましたパチスロ遊技機の新規対応機（5号機）への移行に伴う設備投資負担などにより、依然として厳しい経営環境となりました。その影響もあり、パチンコホールでは手堅く集客が見込める一部の人気機種を大量導入する一方、その他の機種では小規模の導入にとどめるなど、新機種の選別傾向が一段と強まりました。

遊技機業界におきましては、メーカー各社から多数の新機種が発売される反面、大量導入に結びつく遊技機は一部に限られたため、ヒット機種の有無によりメーカー間の販売シェアには大きな格差が生じました。

このような状況のもと、当社のパチンコ遊技機事業につきましては、採用後約2年半を経過した現行本体枠対応機種の最終販売時期となるため、パチンコホールの買い控え等の影響が見込まれましたが、そのような要因を払拭すべく、パチンコホールの求める集客力、稼働の良さといったニーズへの高まりに応える遊技機の開発に取り組んでまいりました。

特に、迫力ある可動役物の搭載など、大当たりに至るまでの演出効果を高めるとともに、映画、人物との著作権タイアップ機種のほか、当社オリジナルキャラクターを用いた遊技

機を投入するなど、商品ラインナップの充実を図りました。

しかしながら、競合他社からも話題性の高い遊技機が発売されたこともあり、当社の遊技機は大量導入には結びつかず、比較的小規模の受注となったため、販売台数が伸び悩みました。

また、パチスロ遊技機事業につきましては、5号機の入替需要を見込んだ新機種が他メーカーからも多数投入されましたが、パチンコ遊技機と同様にパチンコホールにおける導入機種が特定の人気機種に集中したことや、当中間期は当初2機種の発売計画に対して、1機種のみが発売となったため、販売台数が減少しました。

一方、利益面につきましては、販売の不振に加え、調達に長期間を要する部材のたな卸資産廃棄損などの発生や、名古屋事業所における旧生産ラインの固定資産除却損などにより、大幅な損失となりました。

この結果、当中間期の業績は、売上高96億90百万円（対前年同期比46.9%減）、営業損失9億68百万円（前年同期は営業利益31億18百万円）、経常損失9億5百万円（前年同期は経常利益31億79百万円）、中間純損失7億19百万円（前年同期は中間純利益19億2百万円）となりました。

事業の部門別の状況は次のとおりであります。

■パチンコ遊技機事業

パチンコ遊技機事業につきましては、「CRかつば伝説」（平成19年4月発売）、「CRプロジェクトA」（平成19年6月発売）、「CR島倉千代子の千代姫七変化」（平成19年7月発

売）、「CRジュマンジ」（平成19年9月発売）などを市場投入し、販売台数は44千台（対前年同期比44.7%減）、売上高は92億91百万円（同46.8%減）となりました。

■パチスロ遊技機事業

パチスロ遊技機事業につきましては、「パチスロ ブルース・リー」（平成19年6月発売）を市場投入し、販売台数は1千台（対前年同期比46.9%減）、売上高は3億99百万円（同49.7%減）となりました。

通期の見通し

今後のパチンコホール業界におきましては、当中間期と同様に厳しい経営環境が続くことが予想されますが、当社といたしましては、パチンコホール・パチンコファンの皆様にご満足いただける遊技機の開発に精力的に取り組んでまいります。

パチンコ遊技機につきましては、下半期最初の機種として、

11月1日付で型式試験の適合を受けました「CR宇宙戦艦ヤマト」を、フルモデルチェンジした新本体枠とあわせて投入いたします。

新本体枠では、従来枠と比べて盤面領域が拡大し、奥行きも深く、機種開発の自由度が高まります。また、従来とは異なり、前面からパネル入替えが可能となるなど、パチンコホールでの入替作業の効率化を図るとともに、プレイヤーにとっては使いやすさと快適性を追求し、長時間の遊技をサポートする仕様となっております。このような機能性を高めた新本体枠を最大限に活かし、表現力を高めた魅力溢れる遊技機を順次投入してまいります。

また、パチスロ遊技機につきましては、下半期発売予定機種の型式試験の適合を取得しており、順次販売活動を開始してまいります。

なお、平成20年3月期の業績見通しにつきましては、平成19年10月12日に開示いたしました「平成20年3月期中間期および通期業績予想の修正に関するお知らせ」に記載のとおり変更はございません。

業界データ

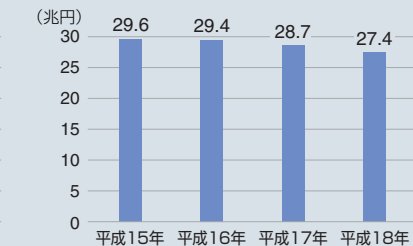
■参加人口



■店舗軒数



■貸玉料



出所(財)社会経済生産性本部「レジャー白書」・警察庁資料 ※店舗軒数にはパチスロ専門店等を含む

■ 貸借対照表

単位：百万円

科目	当中間期 (H19.9.30現在)	前事業年度 (H19.3.31現在)	科目	当中間期 (H19.9.30現在)	前事業年度 (H19.3.31現在)
資産の部			負債の部		
流動資産	28,074	32,087	流動負債	5,141	6,035
現金及び預金	20,821	22,845	買掛金	3,999	3,451
受取手形	1,194	3,038	未払金	639	802
売掛金	1,533	3,293	未払法人税等	45	1,063
たな卸資産	2,646	1,781	賞与引当金	268	298
繰延税金資産	625	269	その他	188	420
その他	1,253	858	固定負債	1,171	1,063
固定資産	13,925	12,484	退職給付引当金	446	369
有形固定資産	9,484	9,239	その他	725	693
建物	2,640	2,650	負債合計	6,313	7,099
機械及び装置	342	554			
工具器具備品	1,543	1,509			
土地	4,363	4,363			
その他	595	160			
無形固定資産	251	242	純資産の部		
投資その他の資産	4,189	3,002	株主資本	35,641	37,381
投資有価証券	341	318	資本金	3,281	3,281
長期前払費用	3,093	2,047	資本剰余金	3,258	3,258
繰延税金資産	458	341	利益剰余金	29,102	30,841
その他	295	295	評価・換算差額等	44	90
			その他有価証券評価差額金	44	90
資産合計	42,000	44,571	純資産合計	35,686	37,472
			負債純資産合計	42,000	44,571

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 損益計算書

単位：百万円

科目	当中間期 (H19.4.1~ H19.9.30)	前中間期 (H18.4.1~ H18.9.30)
売上高	9,690	18,265
売上原価	5,627	10,019
売上総利益	4,063	8,245
販売費及び一般管理費	5,031	5,127
営業利益又は営業損失(△)	△968	3,118
営業外収益	75	72
営業外費用	12	11
経常利益又は経常損失(△)	△905	3,179
特別利益	30	41
特別損失	256	51
税引前中間(当期) 純利益又は純損失(△)	△1,131	3,169
法人税、住民税及び事業税	30	1,042
法人税等調整額	△442	224
中間(当期)純利益又は 純損失(△)	△719	1,902

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科目	当中間期 (H19.4.1~H19.9.30)	前中間期 (H18.4.1~H18.9.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	306	△1,821
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,314	△984
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,016	△867
現金及び現金同等物の増減額	△2,024	△3,673
現金及び現金同等物の期首残高	22,845	19,374
現金及び現金同等物の中間期末残高	20,821	15,701

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 株主資本等変動計算書

当中間期(H19.4.1~H19.9.30)

単位：百万円

	株主資本				評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
平成19年3月31日 残高	3,281	3,258	30,841	37,381	90	90	37,472
中間会計期間中の変動額							
剰余金の配当			△1,019	△1,019			△1,019
中間純損失			△719	△719			△719
株主資本以外の項目の中間 会計期間中の変動額(純額)					△46	△46	△46
中間会計期間中の変動額合計	—	—	△1,739	△1,739	△46	△46	△1,785
平成19年9月30日 残高	3,281	3,258	29,102	35,641	44	44	35,686

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要

設立 昭和41年10月1日
 本社 大阪市中央区内本町一丁目1番4号
 従業員数 377名
 事業内容 パチンコ遊技機・パチスロ遊技機の開発、製造、販売

役員

代表取締役社長 松元邦夫
 取締役副社長 松元正夫
 専務取締役 井上孝司
 常務取締役 永田和政
 取締役 松元恵子
 取締役 辻田隆
 社外取締役 坪本浩一郎
 常勤監査役 近藤邦博
 社外監査役 堀弘二
 社外監査役 川添嗣夫

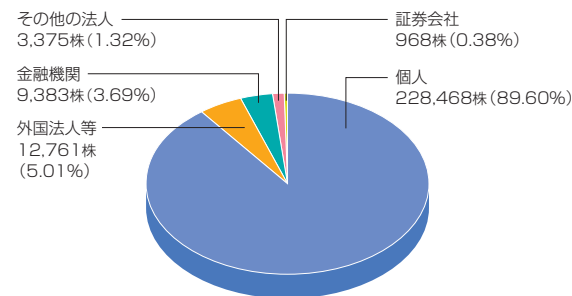
事業所

名古屋事業所(名古屋工場および開発部)
 東京開発事業所
 東京支店 横浜営業所 広島営業所
 大阪支店 八王子営業所 高松営業所
 札幌営業所 静岡営業所 福岡営業所
 青森営業所 名古屋営業所 熊本営業所
 仙台営業所 金沢営業所 鹿児島営業所
 千葉営業所 京都営業所
 埼玉営業所 神戸営業所

株式の状況

- 1) 発行可能株式総数 800,000株
- 2) 発行済株式の総数 254,955株
- 3) 株主数 7,823名

所有者別株主分布



4) 大株主

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
松元 邦夫	95,560	37.48
松元 正夫	65,626	25.74
松元 香揚子	24,280	9.52
モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー・ インターナショナル・ピーエルシー	5,822	2.28
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	5,282	2.07
藤商事従業員持株会	2,939	1.15
松元 恵子	2,600	1.02
エイエスピーシー ファンドサービス スパークス アセット マネジメント コーポレイテッド	2,386	0.94
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,668	0.65
ステート ストリート バンク アンドトラスト カンパニー 505025	866	0.34

トピックス

当社株式 J-Stock銘柄に選定

当社は平成19年11月1日付でジャスダック証券取引所より、「J-Stock銘柄」に選定されました。

社会貢献活動への取り組み

藤商事では、良き企業市民として地域社会との良好な関係を築くため、積極的に社会貢献活動に取り組んでおります。

■ 環境保全活動

平成19年8月に「大阪市一斉清掃クリーンおさか」への参加、また10月には名古屋市西区にある庄内緑地公園にて「庄内緑地公園クリーンキャンペーン」への参加を通じて、清掃活動を行いました。

■ 災害被災者支援活動

平成19年7月に発生した新潟県中越沖地震災害に対して、従業員からの募金を含む災害義援金を日本赤十字社の窓口を通じ、被災地への支援を行いました。

株主メモ

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社 証券代行部

ホームページ紹介

藤商事のホームページでは、皆様楽しんで頂けるよう、様々な情報をご提供しています。



携帯メディアを使った情報サービスも行っています。藤商事公式携帯サイトでは、多彩なコンテンツを公開中!!

CONTENTS

- ・アプリ
- ・着メロ
- ・着うた
- ・着ボイス
- ・待受画像
- ・待受動画
- ・待受アプリ
- ・待受フラッシュ

藤MARU MENU トップメニュー Yahoo!ケータイメニューリスト
 藤MARU EZ カテゴリで探す Yahoo!ケータイメニューリスト
 藤MARU 趣味/娯楽 ゲーム ケータイゲーム
 パチンコ/パチスロ パチンコ/パチスロ パチンコ/パチスロ
 藤MARU 藤MARU EZ 藤MARU

【サービス利用料】月額¥315(税込) ※「iモード」および「アプリ」はNTTドコモの登録商標です。 ※EZアプリ(BREW®)

郵便物送付先 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部
 電話照会先 (住所変更等用紙のご請求) ☎0120-175-417
(その他のご照会) ☎0120-176-417
 ホームページ http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
 同取次所 住友信託銀行株式会社 全国各支店

BUSINESS REPORT

